

発行 千葉明德短期大学 千葉市中央区南生美町 1412 TEL: 043-265-1613 FAX: 043-265-1627 mail: [tandai@chibamnetoku.ac.jp](mailto:tandai@chibamnetoku.ac.jp)

# GEPPO GAPP

千葉明德短期大学 MAGAZINE 『月歩学歩』 2017年6月号

いい顔って  
どんな顔？  
明德らしい顔

少し発見できた？

自分らしい顔は？



# 6月号の内容

- ❖ 2年生 教育実習に向けて 3
- ❖ 1年生 「保育体験から学ぶ」体験 5
- ❖ 2年生 「あそび技能演習」 7
- ❖ 障害者スポーツ大会 9
- ❖ 学友会選挙 10
- ❖ サークル活動 11
- ❖ 森のおもちゃ美術館に行つて 13

■ 今月の表紙  
「あそび基礎演習」 形であそぼう  
(一年生の造形表現授業)

■ 編集  
深谷ベルタ、久保瑠子



# 2年生 教育実習に 向けて

## 由田新

6月9日から2年生は幼稚園での3週間の教育実習へ向かいます。3週間という長きにわたるとのことだけでなく、内容的にも学生たちにとっては保育者へ近づくための大きな超えるべきハードルとなっています。

学生たちはこれまでに幼稚園での保育体験2回、実習6回を行ってきました。2-3月にかけては、保育所・施設でも2週間ずつの実習を経験しました。1年次の実習は、まずは保育の場を体験してみるという意味合いが強く、子どもとかわり子どもを知る、保育者の仕事、役割を知るということが中心でした。

しかし、2年次の実習では、自分が保育者の役割を実践してみるという部分が増えてきます。園の先生方の力をお借りしながら、保育者として子どもたちの状態をとらえ、育ちを見通して、意図を持って関わっていくという経験をしていきます。学生たちにとっては、急に要求レベルが上がった感じですが、“子どもたちの育ちに意図的にかかわる者”としての視点を少しでも持てるようになってほしいと思います。

そんな3週間の実習へ向けて、学生たちは、少しずつ段階を踏んで準備をしてきました。主な内容は、(1)実習での目標や準備することの整

理 (2)指導案の書き方確認 (3)記録の書き方確認 (4)子どもの発達を踏まえた活動の考案 (5)絵本調べ 等です。中でも、計画を立てること～すなわち「指導案」をつくることは学生にとって大きな課題です。小グループに分かれて、同じテーマで指導案を作成したり、互いに見合ったりと学び合ったりと時間をかけてきました。また、「あそび技能演習」、「音楽表現演習III」、「保育内容総論」、「保育方法論I」といった関連する科目での学びも実習へと繋がっています。1つ1つ手を抜かず、しっかり考え進めていけば、気持ちにも余裕がでますし、実習への用意はできるはず。そんな思いで準備を進めてきました。

3週間という長丁場。子どもたちとのかかわりを楽しみつつ、しっかりとねらいをもって学びを深めていってほしいと思います。また、実習は、自分が保育者としてやっていけるのか、自分自身で確認していく機会でもあり、自分の将来の方向性を見つけていってほしいと願います。7月、実習を終え、充実した表情で学校へ戻ってくることを期待しています。





# 1年生 「保育体験 から学ぶ」 体験 伊藤 恵里子

明德では「体験から学ぶ」ということを大事にしています。入学して間もない1年次の4月から保育の現場へ出るということは、まさにこの実践です。今年度も、6月から実習に入らせていただく9つの幼稚園にご協力いただき、4月・5月に半日ずつ体験をしてきました。まだ“実習”という形ではなく、子どもに出会い、保育者に出会い、そこで感じた率直な感想を語り合うということを主眼に置きましたが、さて、学生たちはどのようなことを感じたのでしょうか。ここでは、学生のレポートをいくつか取り上げてみたいと思います。

子どもたちが登園する前、職員ミーティングに参加しました。そこでは、先生たちの朝の挨拶と子どもの様子の報告、子ども一人ひとりの気を付けることの報告...例えば「H君は最近風邪気味なので体調の変化を見逃さないように気を付けましょう」や「年少さんはまだ入園したばかりで生活に慣れていない子が多いので、少しの変化でも気付けるようにしましょう」などの報告がされていました。先生方が子ども一人ひとりのことを本当によく見ていること、体調の変化など細かいところにまで注意を払っていることにすごく驚くと

もに、貴重な体験ができたと思いました。(篠塚真由子さん/4月のレポート)

私は今回、ほとんど子どもと触れ合えませんでした。ずっと「どうすればいいんだろう」と思っていました。今まで(高校の職場体験等で)触れ合えていたのは、周りの人が「お姉さんのところに行ってみなよ」などと声を掛けていてくれたからなんだと気付きました。これからは、待っているだけでは何もできないから、自分で考えて、自分で行動していかなければならないと思いました。次は、自分から子どもたちに声を掛けて触れ合えたらいいなと思います。(渡邊美南さん/4月のレポート)



Yちゃんは机の上の蚕がいる箱を見ていました。Yちゃんに「蚕は大きくなったら何になるの?」と聞くと、「蚕は大きくなったら蚕になるんだよ」と、手で少し大きく作って見せてくれました。私は、蚕が大きくなったら何になるのか知らなかったけど、そのまま大きくはならないということは知っていました。しかし、きっとこれから先、園で蚕の成長を見ていくのかなと思い、違うとは言いませんでした。きっとYちゃんは蚕の成長を見て驚くんだろうなと思うと楽しみです。(多田七海さん/5月のレポート)

保育者になるための第一歩がいい形で踏み出せたのではないかと思います。

4月・5月という早い時期、お忙しい時期に、学生の保育体験を受け入れていただいている各幼稚園の皆様には、改めて御礼申し上げます。



# 2年生 あそび技能 演習

阿部 友理、池谷 潤子、高森 智子、深谷 ベルタ、益子 美土里、山田 典子



◆ 阿部友理：2年生の前期全15回の授業の中で、幼児の表現遊び（主に音楽表現あそび）に関する実践技能を習得し、実演するだけではなく、同時に実習指導案の作成について学んでいます。保育室さながらのリニューアルされたばかりの231教室（音楽室）では、幼児の動きもイメージしやすく、学生がのびのびと表現活動を行っています。保育者や幼児の立場の変換を学ぶのに最適の環境です。また、意欲的に課題に取り組む学生が多く、授業中や授業後の質問も日に日に増えています。三週間の幼稚園実習での成長が楽しみでなりません。

◆ 池谷潤子：（つくって、あそんで、考える）のコースでは、まず「紙皿、紙コップを使ったおもちゃの製作」「1年次の表現系科目のポートフォリオの見直し」を行ないました。また6月の実習までに、手遊び、パネルシアターの製作、ゲームなどの実践を行う予定ですが、今年は学生1人ひとりが丁寧に課題に取り組んでいるため、受講者26人分の解釈とアイデアがいかされるような展開ができるように心がけて授業を行っています。

実習を直前に控えて、多くの学生が図書館にある書籍や保育雑誌で課題を調べていますが、実は1年生からの学びを収めた表現系教科のポートフォリオに、教員がみなさんに伝えたいことや実習で役立つことがたくさん詰まっています。また就職してからも役立つように！という願いも込められています。「灯台もと暗し」。返却されて手元にあるポートフォリオを、ぜひ実習前に開いてみてください！

◆ 高森智子：今年も、「言葉とお話であそぼう」というコースを担当しています。普段何気なく使っている「言葉」ですが、正しく使うことができているかということ、必ずしもそうではありません。言葉づかいはもちろんそうですが、言葉に無頓着になることで、安易な言葉で人を傷つけてしまったり、本当に伝えたい気持ちが伝わらなかったりすることもあるのではないのでしょうか。子どもたちはたくさんの言葉を通して、自分の世界を広げ、人の心を知っていきます。たくさんの言葉に触れ、その響きの美しさを味わうと同時に、言葉の持つ力についても考えていくきっかけとなるような授業ができればと思います。

◆深谷ベルタ：保育教材づくりに挑戦することを選んだグループでは幼稚園実習IIと保育者として働き始めたことを念頭においての制作に精を出し、パネルシアター制作をはじめ、折紙図鑑、フェルト製の指人形づくり等、学生自身が挑戦したいいくつかの課題制作が進行中です。

◆ 益子美士里：（体をつくるあそび）この授業では、私が保育園や幼稚園で行っているキッドビクスをベースに、いろんな運動あそびを学生たちに体験してもらい、その中から実際に附属幼稚園で実習をさせてもらいます。授業を受けるだけでなく、受けたものを実際にやってみることによって、自分流に展開できるようになり、現場に出たときに役に立ててもらいたいと思っています。というのも、幼児期の運動経験は、その子の発育発達に大きな影響を与えます。いかに自ら体を動かしたくなるように子供たちを

導くことができるかが大切だと思います。なので、この授業を通してあそびながら自然と体づくりになっているあそびを考え、実践できる先生になってほしいと思います。

◆ 山田典子：「お話を楽しもう」は、5月9日いよいよ実技が始まり、絵本の読み聞かせ、舞台を使った紙芝居の演じ方、手遊びの実技に取り組んでいます。今年度は‘選ぶ’という事にポイントを置いて、皆さんにリストの中から各年齢、発達に合った物を選んでから実技に入ってもらっています。楽しくそして達成感を感じられる授業が、私の目標です。さて、6月には長い実習が始まりますが、例年、実習が終わった皆さんを見ると、凛々しく、何かが変わったような感じを受けます。7月4日、皆さんとお会いできるのが今からとても楽しみです。





# 障害者スポーツ 大会 結実 有田 成実 高橋 高島 愛実

5月28日（日）に千葉県総合スポーツセンターの陸上競技場・第2陸上競技場にて、「千葉県障害者スポーツ大会」が開催されました。短・長距離走やソフトボール投げ、走り幅跳びなど様々な競技が行われました。1年生と2年生（有志）がボランティアとして参加させていただきました。選手の皆さん一人一人がこれまでの練習の成果を出すために頑張っている姿に勇気と感動をもらい、忘れられない一日となりました。

## みんなの感想

私は「出発係」をやりました。「出発係」は、集合場所からスタート地点まで選手の方々に誘導する仕事でした。ボランティアを経験して、知的な障害を持つ方々がとても足が速かったり、受け答えがしっかりしていて、私が今まで持っていた印象がガラッと変わりました。（1年生 藤井佐介）

初めて参加した障害者スポーツ大会は、とてもいい体験になりました。障害を抱えた方と近くで触れ合う機会があまりないと思うので、保育者を目指す私達にとっていい体験になったと思います。これからの施設実習や個

人的に参加するボランティアなどに活かせる何かを学んだと思います。これからも保育者になるために実習や勉強を頑張りたいです！！

（1年生 秋葉麗奈）

ボランティアを通して、様々な障害を持った方が一生懸命に競技をやっている姿を見ることができ、とても感動しました。選手を応援する声もたくさん聞こえ、まるで自分のことのように嬉しくなりました。体力的にも大変なことはありましたが、貴重な経験をするのができたと思います。（1年生 相沢七海）

ボランティアをして、「目の不自由な人とかどうやって走るのかな？」と思っていましたが、耳で音を追いかけて走るなど、健常者よりも障害者の方は難しいことをしてすごいと思いました。普段あまり泣かない私ですが、障害者の方が競技をしている姿を見て感動して、思わず涙が出そうになりました。

暑い中、一生懸命に取り組んでいる皆さんを見て、とても感動しました。自分も夢に向かって頑張ろうと刺激を受けました。（2年生）

ボランティアの仕事は仕事内容が多く大変でしたが、障害者の方たちとこんなに近くで関われることはあまりないので、良い経験ができてよかったです。障害者差別などの言葉がありますが、私よりも早いタイム

や記録を出す人はたくさんいたし、「この人はどこが悪いのだろう？」と思った競技者の方や、大会記録保持者や大会新記録を出す方もいて、ハンデを負っているのにすごいと思い、障害者の人への見方を考えさせられました。自分も競技者の方を見習って頑張らなければならないと思いました。

(1年生)

障害の方が、より動きやすくできるような援助を心がけました。競技をしている姿には見入ってしまいました。楽しかったです。(2年生)

喜び中、一生懸命に取り組んでいる皆さんを見て、とても感動しました。自分も夢に向かって頑張ろうと刺激を受けました。

(2年生)



# 学友会は？

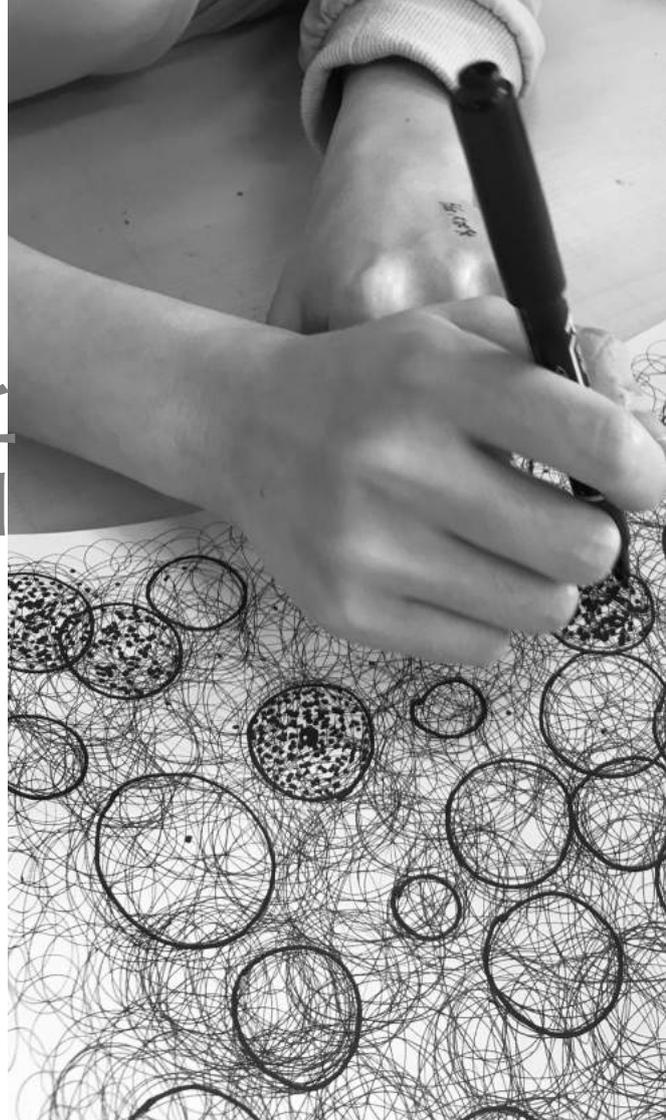
◆ 学生生活委員会からのお知らせです。

5月25日（木）のお昼休み中に「立会演説」及び「投票」が行われ、開始作業の結果として今年度の学友会のメンバーが以下のように決まりました。

会長	飯田琴乃	(2年)		
副会長	栗ヶ窪瑠佳	(2年)	川名あゆ美	(2年)
書記	田原広美	(2年)	佐藤美咲	(1年)
会計	安藤優真	(1年)	多田七海	(1年)
監事	石坂南実	(1年)	高山珠緒	(1年)

◆ 6月9日から2年生の教育実習（幼稚園実習II）が始まり、3週間ほど学校がお留守になりますが、学友会の最初の「大仕事」となる「明德広場」（学園祭）を準備を1年生で進められるといいですね。

# サークル活動はどう？



◆ 今年度は以下のようなサークルが発足し、活動を開始しました。

- フィットネス サークル
- バスケ&バレー&バドミントン
- テニス
- 園芸
- オセロ
- バレエ

◆ サークル活動の予算は3万円ずつ。予算&費用の管理はサークル顧問に一任され、基本的に学生の一時的な立て替え払いとなり、後日領収書と引き換えの上でサークル費用から支払われます。費用の支出と帳簿づけをお忘れなく！





# 森のおもちゃ 美術館に行って 吉羽寿恵 森崎奈々美



5月20日（土）に新宿御苑で開催された「森のおもちゃ美術館」に、3歳の息子と森崎奈々美さん親子と共に行きました。「森のおもちゃ美術館」というのは、東京おもちゃ美術館と一般社団法人口ハスクラブ、認定NPO法人芸術と遊び創造協会が主催しているイベントで、私は「こどもと文化1」の授業内で池谷先生から紹介され、知りました。

当日会場に着くと、広い芝生にたくさんの木で作られたおもちゃがありました。その数は約500点だそうです。そのおもちゃは、子どもが自由に行き来して遊べるようになっており、「おもちゃ学芸員」という方々が遊び方などをサポートしてくれていました。たくさんのおもちゃの中でも息子が何度も遊んでいたのが、筒状になった様々な大きさの木や半円の木のおもちゃです。おもちゃ学芸員の方にお話を伺ったところ、特に遊び方にルールはなく、子どもが自由に想像して遊ぶものとのことでした。息子がどのように遊ぶのか見ていましたら、半円のパーツを上手に積み

重ねて山を作っていました。大人だったら「これは重ならない」と使わないようなパーツも重ねてみて失敗したり、時には成功したりと遊びの中でいろいろな経験をしているようでした。普段遊んでいる既成のおもちゃには少なからずルールがあります。しかし、木のおもちゃにはルールがないものが多く、だからこそ子どもの持つ想像力で遊びの幅が広がり、また子どもの想像力も育つのではないかと感じました。そして子どもだけでなく、一緒にいる大人も「こうしてみたら？」など思わず一緒に遊んでしまう魅力があり、子どもとのコミュニケーションになります。木製ということで、一つ一つは高価なのですが、木製だからこそ自分でも作れるかもしれないと思いました。大人の想像力を育てる力もあるのかもしれないかもしれません。今回の森のおもちゃ美術館は、子どもにとっても大人にとっても心を育てる良い機会になりました。（48091吉羽寿恵）

5月20日土曜日。全国から木のおもちゃが集まる「森のおもちゃ美術館」に行ってきました。新宿御苑で行われたこのイベントには、全国の木のおもちゃを提供する様々な企業や団体が沢山集まってワークショップを展開していました。

会場には丸太の積み木、木の卵のボールプール、ドールハウスなど様々な木のおもちゃのプレイスペースがあり、どの子どもたちも楽しそうに遊んでいました。

木のおもちゃと言うと、テーブルで遊ぶ車や積み木のイメージで、やんちゃな子は飽きてしまわないかと思っていたのですが、イベントには木で作られたジャングルジム、格子状の大型囲碁板、ボルタリングなど体を動かして遊べる遊具も作られていて、一日中楽しめる空間ができていました。それぞれの箇所に、何かあっても大丈夫な様に

スタッフが配置されており、安全面も配慮されていて安心しました。

実際に親子で丸太の木を切る体験をして、木のおもちゃのルーツを知ることができました。その他の体験コーナーでは、カスタネット作りやクリオネバーンなどがあり、簡単な組み立てで木のおもちゃを作ることができ、仕上げに好きな絵を描いたり塗ったりして楽しみました。自然の中で木を使ったおもちゃで遊ぶことはとても気持ちがよく、道中の都会の喧騒がウソのように穏やかな時間を過ごすことができました。

最後は無言で夢中になって遊んでいる息子の姿に「集中力がついたのかな、これぞ木育（もくいく）だな」と子どもの成長を感じ、充実した一日を過ごすことができました。（48084 森崎奈々美）





## 編集者後記

先日少し覗いてみた「乳児保育」の授業の様子。学生達は赤ちゃんだけではなく自分の体の使い方についても学んでいました。床や畳の上で座ることが多くなる乳児保育、楽な正座のコツも憶える必要があることに少々驚いてしまったのだが、なるほど、洋間の多い今の家庭環境だと日頃から正座することも案外少ないという覚悟で授業をする必要があるようです。

子育てのプロを目指す若者たち、憶えなければならぬことが山ほど。養成側の私達も古い前提で話を進めるわけには行かず。「こんなことができるだろう」と甘く考えては行き詰まります。先日別の授業でパペットを作り、時間内に仕上げることはできず宿題に。簡単な針仕事、できるだろうと思ったら、それは実に甘い計算だったことが後日に判明。できて当たり前と思うのは何も教員だけではない。学生自身もそう思うからこそ、なかなか自ら「ヘルプ」と言えません。





## 学事日程

### 6月

- 2日 (金) 第67回スタバ  
お話ライブ
  - 9日 (金) 教育実習II~30日  
(2年生)  
  
教育実習I (1年生)
  - 15日 (木) 教育実習指導日  
(2年生)
  - 16日 (金) 第3回まんぷく  
CAFE
  - 22日 (木) 保育実践研究会
  - 24日 (土) オープンキャンパス
  - 28日 (水) 献花式
- ★ 7月
- 1日 (土) めいとーく





# 「こどもと文化」から 一コマ：「食べる絵本」



